

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

### ② 評価調査者研修修了番号

sk2024099

sk2024096

s2024034

### ③ 施設名等

名称	高風子供園
施設長氏名	高橋 理恵
定員	36名 地域小規模児童養護施設3×6名
所在地(都道府県)	神奈川県
所在地(市町村以下)	
T E L	
U R L	

#### 【施設の概要】

開設年月日	1946/3/7
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人白峰会
職員数 常勤職員	38名
職員数 非常勤職員	9名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数	27名
有資格職員の名称（イ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数	2名
有資格職員の名称（ウ）	児童指導員
上記有資格職員の人数	9名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数	3名
有資格職員の名称（オ）	調理員等
上記有資格職員の人数	3名
有資格職員の名称（カ）	心理士
上記有資格職員の人数	1名
施設設備の概要（ア）居室数	生活居室6、地域小規模児童養護施設3
施設設備の概要（イ）設備等	心理療法室、静養室、医務室、調理室、相談室、交流室
施設設備の概要（ウ）	
施設設備の概要（エ）	

### ④ 理念・基本方針

高風子供園は、キリスト教の精神に基づき、子ども一人ひとりを大切に、保護者、地域から信頼される児童養護施設を目指しております。

子どもはわたくしたちのたからです

たえずおとなによるこびと のぞみと ひかりをあたえてくれます

わたくしたちは まごころをもってひび よくそだてましょう

平野 恒

### ⑤ 施設の特徴的な取組

○管理職を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティアの活動は多く、現在、学習のボランティアや衣類補修のボランティア、理美容のボランティア、生活のボランティア、バイオリンのボランティアなどが活動している。また、ボランティア団体が、花壇の植樹や手入れを行っている。園の歴史は古く、大手企業や地域企業など多くの団体から、さまざまな支援を受けている。子どもたちにも、人は常に支え合って生きていることを伝え、感謝の気持ちを忘れないよう働きかけられている。ボランティアから意見を受ける機会もあり、園の運営に反映している。

○こどもたちを対象にして、セカンドステップ教育プログラム（1段階：相互の理解、2段階：問題の解決、3段階：怒りの扱い）を取り入れている。こどもたちは、感情への向き合い方や、自分に権利があるのと同じように相手にも権利があることを学習している。

### ⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/7/18
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2026/2/25
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和4年度（和暦）

### ⑦ 総評

○昭和21年開設の歴史のある園で、創設者平野恒の言葉「おさなごにまなぶ」という姿勢を基本理念として、こどもたちの最善の利益を目指して、養育・支援にあたった。2年前に園舎の建て替え工事が完了し、こどもたちは6つの小規模グループに分かれ、新園舎での生活を開始している。また、地域の戸建てを3軒借り上げ、地域小規模児童養護施設を運営している。

○小学生から高校生までの縦割り、6人の子どもが同じ居室で生活している。また、幼児だけの居室もある。全員が個室ではないが、年長児からは個室としている。居室内でも部屋への出入りは本人のみとし、仲間とはリビングで遊んでいる。部屋の編成は、年度末にこどもの希望を参考にして決めている。共有スペースの掃除は、平日は職員が、週末はこどもたちが分担して行っている。

○各居室には、リビングに本棚があり、先輩が残した本や漫画などが並んでいる。居室に学習机はあるが、ほとんどのこどもが、リビングで宿題などを行っている。幼児は、雨天でも遊びが可能な場として、プレイルームを設けている。こどもたちは発達に応じて、特別支援学校や特別支援級に通っている。学習ボランティアの援助を受けたり、塾に通っているこどももいる。また、水泳や野球、フラ、マラソン、卓球などの活動を行っている。こどもたちは、発表の場で成果を見てもらうことを楽しみに頑張っている。

○卒園後の自立に向け、洗濯の練習や週末の食事作りを手伝ってもらう他、小遣いやアルバイト代を計画的に預金するなど、金銭管理を日頃から行っている。また、光熱費など無駄な使用はしないよう、職員が一般家庭と同じように声かけしている。アフターケアについては、卒園時の担当職員が窓口となり、面会を年に数回計画している。

○職員は個別担当制とし、愛着関係の構築に努めている。「部活の打ち上げ参加回数」や「おやつ時間」などのルールはあるが、状況に応じて、居室職員の判断で柔軟に対応している。幼児は、宿直職員が各部屋を見渡せるリビングで寝て、安心して就寝できるようにしている。

○居室毎に開催される児童会で、生活の中での問題を皆で考えているが、すべてをルールとして決めるのではなく、「思いやり」の心を養うことを大事にしている。例えば、テレビのチャンネル権もルール化せず、その都度、話し合っている。アルバイト代は、卒園後の資金用に預金を推奨しているが、「蓄えが貯まっているので大きな買物をしたい」などの希望に対しても、柔軟に対応している。トラブルや失敗を避ける支援を行いがちであるが、問題が起きた時の自己対応力も養いえるよう支援している。

○常に落ち着かないこどもについて、クラス会議や職員会議などで取り上げ、状況を共有するとともに、児童相談所とも連携しながら、背景や要因を探って対応している。こどもたちの8割程度が養育環境（虐待）によるトラウマで情緒不安定になっている状況がある。全職員が情報を把握し、関係機関と連携しながら支援をしている。

○調理は委託ではなく、1階の調理室で夕食の主菜、副菜を調理し、各居室へ運んでいる。主食や味噌汁は居室担当の職員が調理し、ご飯が炊けるにおい味噌汁のかおりが感じられる環境を作っている。また、週末の昼食は居室で調理して、こどもたちも手伝っている。塾やアルバイトで夕食時間に間に合わない場合は、温めてあたたかい物を出している。こどもの誕生日は「こうふうしんぶん」に名前を掲載し、元パティシエの調理師手作りのデコレーションケーキのプレゼントがあり、本人だけでなく居室全体で楽しみにしている。

⑧ 第三者評価結果に対する施設のコメント

この度、四回目の第三者評価を受審致しました。今回は改築後初めての受審となりました。新しい建物で2年が経ち、子ども職員もここでの生活にすっかり慣れることができました。この2年でたくさんの職員が入職し、子どもの養育と並行し、人材育成に多くの時間を費やしました。そのため、前回は振り返り反省点を生かして改善するまでには手が回らず、この機会をきっかけに停滞状態にあることを自覚する結果となりました。自己評価は、よくも悪くも殆ど変化がなく、成長が感じられず反省しております。次回の受審まで、今回の結果をふまえ、反省を生かして改善点の見直しに努めて参りたいと思います。新年度を迎えるにあたって、応援して下さる皆さまへの感謝と、子どもたちの気持ちを大切に頑張りたいと思います。今後ともご指導のほど、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

⑨ 第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、こどもや保護者等への周知が図られている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。

【コメント】

ホームページに法人の理念を掲載している。職員には入職時に理念を説明し、「業務実践の手引き」を事務所に置き、いつでも内容を確認できるようにしている。「業務実践の手引き」は、現在、リーダー会議のメンバーで改訂作業を行っている。新人職員は、希望があれば入職前にアルバイトで実務を経験してもらっているが、その中で理念や基本方針を、施設長から説明している。こどもたちや家族には、入所のタイミングで家庭支援専門相談員から説明している。生活の様子は、ルビを振った「高風子供園について」で、分かりやすく説明している。

## 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> こどもの数・こども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とするこどもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とするこどもの推移、利用率等の分析を行っている。	a ○ ○ ○ ○

【コメント】

月1回、県の児童福祉施設の施設長会に施設長が参加し、社会福祉事業全体の動向や情報の収集に努めている。必要な情報は、職員会議の前に開催するリーダー会議で説明し、非常勤の職員を含め、職員全体を対象とした職員会議で内容を周知している。リーダー会議には、施設長、副施設長、主任、各ユニットリーダーが参加している。リーダー会議と職員会議は月1回開催している。また、職員会議とは別に、ユニットごとの会議を、月2回開催している。記録についてはICT化を進め、職員のタイムリーな情報共有が可能となっている。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	a ○ ○ ○
---	--	------------------

【コメント】

経営の課題には、人材の確保と育成がある。人材の確保については、姉妹法人が運営する短期大学から、毎月実習生の受け入れを継続しているが、学生数が減少していることから、他校からの実習生の受け入れも行っている。職員会議で課題を説明し、職員から出身校の情報を入手している。人材の育成に関しては、風通しの良い職場作りに努め、困った時はすぐに相談できる体制を整えている。施設長も可能な限り現場のフォローに入り、職員に積極的に声をかけるようにしている。光熱水費の高騰に対しては、できるだけ無駄をなくすようにしている。建て替えにより、死角になる部分ができることを心配していたが、特に気になる問題は起きていない。

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	b ○ ○

【コメント】

中・長期計画としての書面は作成していないが、7年の計画を経て、建て替えを行ったばかりである。法人の理事会には、施設長が必ず出席して、運営状況を報告している。現在、3ヶ所の地域小規模児童養護施設を運営しているが、今後は4ヶ所目の地域小規模児童養護施設の開設や、児童自立生活援助事業所Ⅱ型の運営などを視野に入れている。ゆくゆくは、卒園生の就労先として、就労継続支援B型事業所の開設も考えていきたいと思っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度の事業計画は、単なる行事計画にはなっていないが、中・長期の計画を踏まえた事業計画にはなっていない。次回の事業計画の作成時には、中・長期的な計画を盛り込んでいきたいと考えている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

毎年2月頃に行事や研修について、職員の意見を聴き取っている。職員の声を集約して、施設長が事業計画を作成している。また、職員に「来年度の働きに関するアンケート」を実施し、その結果を反映して「役割表」を作成している。職員アンケートでは、次年度どういったことを行いたい、自由記述で記入してもらっている。作成した事業計画は理事会に諮り、年度初めの職員会議で内容を説明している。職員には1年間のスケジュールが確認できる「年間スケジュール帳」を配布している。「年間スケジュール帳」は、主任が作成している。

②	7 事業計画は、こどもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、こどもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容をこども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、こどもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、こどもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

家族には、カンファレンスや電話で日々の様子を報告しているが、事業計画については説明していない。年1回、クリスマス会の開催の前に、法人の「白峰会ニュースレター」を発行し、支援者や関係機関に配布しているが、家族には送っていない。こどもたちとは、持ち回りで、毎月「こうふうしんぶん」を作成している。「こうふうしんぶん」には、行事の予定や誕生者を紹介して、各部屋に掲示している。こどもの誕生日には、こどもの希望を入れたケーキを、元パティシエの調理師が作り、皆で祝って楽しんでいる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者  
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

リーダー会議や職員会議、居室ごとのクラス会議を定期的に行い、日々の養育・支援の内容の振り返りを行い、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを組織的に行っている。事例検討会議は、管理職が中心になって進行し、クラス会議の内容は、リーダー会議や職員会議で全体に周知している。また、自立支援計画の作成会議は、年2回開催しているが、1回目の会議には、児童相談所のケースワーカーも参加している。園全体で養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	

【コメント】

居室ごとに「児童会」を開催して、こどもたちの声を聴いている。こどもたちの声は、クラス会議や職員会議につなげ、内容を検討している。こどもたちの声を受けて、スマホの使用可能年齢を下げたり、小遣いの金額の調整に取り組んでいる。就寝時間や門限など、基本的なことは園全体で決めているが、居室によって多少変えている。また、こどもたちの声は、居室ごとに確認しているが、内容によって、小学生会や中学生会などを開催することもある。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長を含め職員の役割を「役割表」にまとめ、職員に周知している。施設長はできるだけ支援現場に足を運び、アクシデントなどにより、職員の配置が手薄な時は、現場勤務も担っている。こどもたちとの関係も良好で、こどもたちが事務所を訪れ、声をかけてくることも多い。施設長、副施設長、主任の3人の管理職が、不在時は権限を委譲し、全員が不在にならないよう留意している。休暇時も連絡がくることが多いが、携帯電話やLINEで連絡している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、県の児童福祉施設の施設長会に施設長が参加し、社会福祉事業全体の動向や情報の収集に努める他、遵守すべき法令などを理解するよう努めている。職員に必要な情報は、職員会議などの場で、施設長から職員に説明し、園全体で情報を共有するようにしている。最近の情報では、共同親権について、職員に説明する必要があると考えている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日頃より、職員の声を積極的に聴くように努め、コミュニケーションを密に取るようにしている。職員からは、こどもの対応で困っていることや家族のこと、子育ての相談など、さまざまな話がある。毎日の職員との関わりの中で、気になる様子が見られた時は、声を掛けて話をするようにしている。こどもたちからも相談がよくあるが、まずは「担当の職員に相談したの？」と確認するようにしている。子育て中の職員が働きやすいように配慮し、また、子育て中でない職員も長期休暇が取れるように配慮している。こどもたちが一般家庭の環境と差がないように取り組み、地に足が合った支援を提供している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

給与や加算の申請、措置費の請求業務、日常の経理など、役割分担して、経営の改善や業務の実効性を高める取り組みを行っている。光熱水費の高騰は職員にも伝え、人がいない部屋の照明は消すように伝えている。こどもたちも、卒園した後の自立生活を考え、省エネについて話をするよう、職員に伝えている。不必要な電気はこまめに消し、エアコンの設定温度にも配慮して、省エネに取り組んでいる。ゴミの分別もイラスト入りのチラシを掲示し、それぞれのゴミ箱を用意している。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員の採用については、施設長、副施設長、主任3人で、書類の選考から面接、実習までを担当している。求人は、ホームページや福祉人材センター、求職サポート会社を活用して行い、人材派遣会社は使っていない。人材の確保は十分とは言えないが、不足はしていない。就職説明会への参加や、保育士養成校での講師業務などの成果もあり、毎年、採用へとつながっている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、管理職会議、リーダー会議、職員会議の順で会議を開催している。管理職会議は、施設長、副施設長、主任の3人で行い、管理職会議とリーダー会議は、それぞれ3時間程度時間を取って十分な話し合いを行い、園の支援方針会議として位置付けている。人事考課制度は取り入れず、昇給などについては、法人が最終的に決めている。こどもたちにとって、特定の大人との関係作りも大事と捉え、個別担当制を取っている。職員の異動も、本人の希望を尊重して行っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員が働きやすい職場作りとして、出産後も働き続けることができる体制を整えている。職場復帰後は、時短勤務の他、1年間は泊りの勤務がないよう配慮している。有給休暇の取得も特に問題なく、新人の職員も5連休が取れるように配慮している。勤務シフトは、主任とリーダーで作成している。施設長と職員の個人面談は、希望を取り、11月の意向調査後に行っている。気になる職員については、日常的に気をつけて施設長から声をかけ、個人面談につなげている。施設長が心理の専門職であることから、こどもたちの養育・支援に関わる相談も多くあり、その都度、施設長が話を聴き、アドバイスを行っている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
---	----------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

期待する職員像は、採用面接時や職員会議の場で、創設者の思いを込めて、施設長から職員に伝えている。子どもたちは特定の大人との愛着関係を築くことが大事と捉え、長く勤めて子どもや職員との関係作りをしてほしいこと、おさなごから真摯に学んでほしいこと、感謝の気持ちを持って関わってほしいことなどを、施設長から職員に伝えている。また、コミュニケーションの大切さも伝えている。職員の目標管理制度は取り入れず、県の児童福祉施設協議会の中堅やリーダー研修、また、県や市の虐待防止やリーダーシップの研修に職員が参加している。不定期だが、新任職員向けの内部研修も開催している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

内部研修は、管理職やリーダーでテーマを決め、12月の人権週間に開催している。これまでに、外部講師を招いて、CAP(子どもへの暴力防止プログラム)やアングーマネジメント(怒りの管理方法)などの研修会を開催している。また、内部講師による、施設内虐待についての研修会も開催している。今年度から、新任職員のための研修を開催している。新任職員は、入職1ヶ月後、2ヶ月後に、主任を中心に研修を行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

外部研修は、職員の参加希望を確認しながら、管理職やリーダーが参加者を決めている。職員1人が、年間に2~3回の外部研修に参加している。外部研修に参加した職員は、報告書を提出し、内容によって、職員会議などで研修報告を行っている。月1回、県の児童福祉施設職員研究会が主催する研修会があり、職員の希望を聴きながら、参加者を決めている。コロナ禍後は、オンラインやハイブリッド形式の研修開催も増えている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員を窓口として、実習生の受け入れを行っている。姉妹法人が運営する短期大学をはじめ、他に5校から、年間60名ほどの保育の実習生を受け入れている。実習から就職につながるケースもあり、職員の勉強や育成にもつながっていることから、今後も積極的に実習生の受け入れを行っていく予定である。こどもたちの反応はさまざまで、喜んで実習生を受け入れるこどもがいる反面、思春期のこどもは距離をとり敬遠することもある。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ホームページに情報を公開するとともに、年1回発行する法人の「白峰会ニュースレター」に、決算報告を掲載している。「白峰会ニュースレター」は関係機関などに広く配布して、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。また、町内会や子ども会に所属し、活動に参加している。子ども会には、希望する中・高校生も参加し、職員も子ども会の係を決めて、もちつきなどの行事の手伝いをしていく。また、必要に応じて、園の活動の様子やこどもたちの状況を、地域に伝えている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎月、会計事務所の会計士が園を訪れ、経理や財務の状況を確認し、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営に取り組んでいる。また、第三者委員の1人が弁護士であることから、いつでも相談ができる体制にある。児童相談所内の弁護士にも相談することができる。こどもたちにとっても、いろいろな職種の人とつながりを持つ環境であると思っている。

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> こどもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	

【コメント】

子どもたちが地域の子ども会に所属して、お祭りやもちつきなど、地域の行事に参加している。また、園が開催するクリスマス会には、地域の町内会長や地元で世話になっている人、学校の先生、民生委員・児童委員を招待している。法人の「白峰会ニュースレター」には、子どもたちの生活の様子を写真入りで掲載し、決算報告や寄附の感謝などととも、関係機関に園の様子を伝えている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

管理職を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティアの活動は多く、現在、学習のボランティアや衣類補修のボランティア、理美容のボランティア、生活のボランティア、バイオリンのボランティアなどが活動している。また、ボランティア団体が、花壇の植樹や手入れを行ってくれている。園の歴史は古く、大手企業や地域企業など多くの団体から、さまざまな支援を受けている。子どもたちにも、人は常に支え合って生きていることを伝え、感謝の気持ちを忘れないよう働きかけている。ボランティアから意見を受ける機会もあり、園の運営に反映している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

児童相談所とは年1回、連絡会を開催する他、自立支援計画策定時に連携している。小・中学校との連絡会は、コロナ禍以降、家庭訪問形式にするなど、工夫して行っている。こども医療センターの医療コンサルテーションは年1回行っている。幼稚園や小学校の保護者やPTAの集まりでは、児童養護施設の紹介をする他、小学校の先生に向けて講義を行ったりしている。警察署や消防署、療育センターなどとも、日頃より連携に努めている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	

(5種別共通)

地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。

【コメント】

小学校からの依頼を受け、「こども110番の家」として登録している。「こども110番の家」は、こどもが不審者に追いかけられたり、事故に巻き込まれそうになった際、助けを求めて駆け込める地域の協力家庭や事業所のことで、フラッグやステッカーを掲げ、保護や通報を行うボランティアである。現在、地域小規模児童養護施設3園でも、登録を行っている。また、区の要保護児童対策協議会に参加し、地域のニーズの把握に努めている。

②

27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。

b

把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。

把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。

多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。

施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。

地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。

【コメント】

園の敷地が土砂災害警戒区域になっているため、防災対策は今後も必要と捉えている。災害時の備蓄品は、こどもの分は確保しているが、災害発生時に地域の人が避難してきた時に、どう対応したらよいか、今後の課題としている。園舎の建て替えが終わり、まずはこどもたちの生活が落ち着いてから、園として何ができるか検討していきたいと考えている。地域には高齢者も多く、日頃より挨拶して関係作りに努めているが、園には専門職も揃っていることから、相談支援などをどのような形で行っていくか、今後の課題としている。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 こども本位の養育・支援

(1) こどもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者  
評価結果

①

28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。

a

理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。

こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。

こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。

こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。

こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。

【コメント】

創設者の「おさなごにまなぶ」ことを大切にし、こどもたち一人ひとりを尊重する精神を育てている。こどもを尊重する姿勢は、マニュアルや業務実践の手引きに明示している。基本理念や業務実践の手引きは、入職時の研修の中でしっかりと伝えており、年度初めには全職員で読み合わせを行っている。こどもの人権や虐待防止などの研修を定期的に行い、今年度はアドボカシー研修として、外部講師を招き、こどもの声を聴く大切さを学んでいる。

②

29 こどものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。

a

こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。

規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。

一人ひとりのこどもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、こどものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。

こどもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。

【コメント】

こどもたちのプライバシーの保護に努めている。日々の生活の中では、こどもの部屋に入室する際には、必ずノック、声かけをしている。こどもたちは一人で入浴しているが、幼児の場合は職員が脱衣所で声かけし、自分では洗えないところを介助している。夜尿などがあるこどももあり、失敗した時はさりげなく、介助するようにしている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 こどもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定のこどもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

理念や基本方針はパンフレットに掲載し、情報を提供している。また、法人の「白峰会ニュースレター」では、イベントの様子を地域の方や支援団体に提供している。各部屋には、こどもたちが作成した「こうふうしんぶん」を掲示している。見学を受け入れ、見学者にはパンフレットにて説明を行っている。園内には、これまでの大きなイベントの写真を掲示している。

②	31 養育・支援の開始・過程においてこどもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、こどもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、こどもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難なこどもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所の依頼に対し、家庭支援専門相談員や担当職員が面接に行き、こどもの状況を確認している。こどもには見学に来てもらい、本人が納得した上で入所している。入所日までに、こどもの好きな食べ物や遊びなどを確認し、入所後の生活に必要な物を取り揃えている。入所日には、「〇〇さんへ」という園生活の手引きを渡して、説明を行っている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設としてこどもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、こどもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更のケースは、乳児院からの措置はあるが、小学生以上は少ない。退所後のアフターケアについては、家庭支援専門相談員や自立支援担当、元担当者による支援を行い、卒園1年目には、電話による連絡や訪問などを定期的に行い、記録に残している。園の歴史は古く、卒園生も20歳代から70歳代と幅広い。卒園児からは、結婚や出産などの嬉しい報告も届いている。

(3) こどもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 こどもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	こどもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもへの個別の相談面接や聴取等が、こどもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、こどもの満足を把握する目的で、こども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、こども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもたちに、満足度を目的としたアンケートは実施していないが、日々の生活の中で、こどもの声を聴き、把握している。また、年2回、自立支援計画作成時の面接の中で、こどもの思いや困っていること、満足していることなどを確認している。月1回、各居室ごとに児童会を開催し、こどもたちのやりたいことや食べたいものなどを聴いている。食事の希望は、リクエストメニューとして献立に反映している。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
<input type="checkbox"/>	養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情解決責任者を施設長、苦情受付担当者を副施設長として、苦情解決の仕組みを作っている。また、第三者委員も置いている。意見箱も設置しているが、利用はあまりない。こどもたちは何かあると、直接、職員に話をすることが多い。内容は友だちとの関係が多く、その都度、アドバイスしている。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/>	こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもたちには、困ったことや心配なことがある時には、いつでも相談ができることを伝えている。相談はどの職員でも受けることができることも伝えている。児童会の中の意見で、門限の時間を延ばしてほしいという意見があり、職員会議で検討して延長したりしている。また、年末年始の門限の時間も検討したりしている。こどもたちからの個別の相談は、応接室や家族支援室などを使用して、話を聴くようにしている。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、こどもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもからの意見はできるだけ早く検討し、子どもたちに結果を伝えている。また、漠然と「大人は何もしてくれない」などの意見が出た時には、見えないところで大人はこんなことをしているということを伝えたりすることもある。またできることと、できないことがあることを話し、できないことは理由をきちんと説明して理解してもらっている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	b

【コメント】

リスクマネジメントの責任者は施設長としている。園は土砂災害警戒区域に指定されているため、大雨が降った時は、園の周りの点検を、防災委員を中心に行っている。ヒヤリハットや事故報告書の書式を整え、起きた事案に対して、全体で対策を協議している。大きな事故は発生していないが、ヒヤリハット事例への対応を、さらに検討する必要があると捉えている。

②	38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	a
---	--	---

【コメント】

子どもが罹患しやすい疾病やインフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルスなどに関するマニュアルを整備し、職員に周知している。感染症が発生した場合は、拡大防止のための隔離対策など、手順を決めている。ノロウイルス発生時は、トイレを別にしたり、お風呂は最後にしたりと、対応が大変であった。日頃より、手洗いやうがいを励行し、感染症の好発期には、マスクの着用を徹底して予防している。

③	39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的にしている。 <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。 <input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	a
---	---	---

地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。

【コメント】

防災マニュアルを整備し、防災計画のもと、計画的な避難訓練を行っている。土砂災害警戒区域に指定されており、園の前の公園は市が危険個所の点検を行っているが、大雨が降った時は、職員が周囲を点検している。年1回、防災点検業者により点検を受け、火災受信機の手順を全員で確認している。地域小規模児童養護施設と合同で、避難訓練を実施している。備蓄品として、3日分の食料や水を保管している。その他、紙皿やマスク、毛布、簡易トイレなどを備蓄品倉庫に保管し、管理は栄養士が担当している。自家発電機や照明器具なども備えている。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。 第三者  
評価結果

①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、こどもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

各種マニュアルには標準的支援方法が明記されており、職員は研修会や会議において、読み合わせを行い、周知に努めている。業務実践の手引きには、支援に関する基本的な方法を明記し、常に職員は手引きを確認しながら、こどもたちの養育・支援にあたっている。特に、こどもたちの権利擁護については、基本を守るよう努めている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員やこども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

標準的実施方法の見直しの時期は、特に決めていない。感染症マニュアルは、新型コロナウイルスが5類に移行した段階で見直しを行っている。防災関係では、市から土砂災害警戒区域に指定されてからは、環境確認を行っている。変更が必要な事案は、リーダー会議で検討して修正し、職員に変更点を報告して周知している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、こども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、こどもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援計画の作成は、子どもと面接し、子どもの希望や目標を確認して、担当職員が案を作成している。計画案は児童相談所のケースワーカーも確認している。計画策定の手順は、業務実践の手引きに明示して職員に周知している。自立支援計画には「朝起きられるように努力したい」など、子どもたちの目標を、本人の言葉で明記している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

年2回、自立支援計画の策定、評価、見直しを行っている。計画の評価、見直しに際しては、子どもと面接し、生活の振り返りを行っている。今後の生活の目標を立て、計画を修正している。評価、見直しにあたっては、児童相談所と連携し、家族との関係についても確認している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

児童相談所からの入所依頼書や児童票、ケース記録などは、事務所の鍵のかかる書庫に保管している。その他、日々の記録や育成記録、自立支援計画書などは、パソコン内で管理している。必要な書類は、職員間で共有できるシステムを導入している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

個人情報保護規程を整備し、プライバシーの保護を職員に周知している。個人情報の取り扱いは、子どもや保護者にも説明も行っている。子どもたちに関係する書類は、すべて鍵のかかる書庫に保管している。子どもの記録は永久保存しており、開所当初からの子どもの記録を保管している。これまでに、情報開示の請求を受けたケースはない。

## 内容評価基準（24項目）

### A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・宗教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	
<p>園はキリスト教の精神に基づき運営しているが、礼拝などは強制せず、クリスマス会を含めすべての行事は、子どもの意思を尊重して参加している。12月の人権週間に内部研修を毎年開催し、「人権に関する研修」には、職種を問わず非常勤も含めた全職員が参加している。また、県や市が開催する虐待防止研修や、GAP（子どもへの暴力防止プログラム）、アンガーマネジメント（怒りの管理方法）研修に参加し、日頃から子どもの権利について、職員全員が高い意識を持ちながら支援している。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	
<p>権利ノートについては、入所時に児童相談所と園で説明を行っている。権利ノートは、幼児は担当職員が管理し、小学生になると自己管理している。あらためてノートの内容について振り返りは行っていないが、2年に1回、外部の講師による子ども対象の研修を開催している。また、セカンドステップ教育プログラム（1段階：相互の理解、2段階：問題の解決、3段階：怒りの扱い）を取り入れ、感情への向き合い方や、自分に権利があるのと同じように相手にも権利があることを学習している。</p>	
(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生い立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

こどもの生い立ちに触れることは、デリケートな部分でもあり、日常生活の中では難しい面もあるが、年2回の自立支援計画策定時に、生い立ちの振り返りを行っている。こどもたちから「生まれた病院を知りたい」「どこで生まれたかを知りたい」などの声が聞かれることもある。こどもの情緒が不安定な時は、振り返るタイミングについて児童相談所とも連携し、クラス会議の他、全職員でチームとして共有し、本人にとって良い方法とタイミングを模索している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	<p>A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p>	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・こども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、こどもに周知し、こども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料をこども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、こどもが自ら訴えることができるようにしている。	

【コメント】

こどもへの注意が強い叱責になっている場面を見かけた場合などは、職員会議で問題提起し、話し合いを行っている。職員から経緯を聴き取り、繰り返しにならないよう共に原因を考えている。こども向けには、自分自身を守るための知識や方法を学習する機会を設けている。2年前に新園舎が完成しているが、どうしても死角になる部分がある。また「もっと職員が多いと、余裕のある支援ができる」という声もある。現在は、大きな問題はないが、対応については今後の課題としている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	<p>A5 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> こどもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、こどもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、こどもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

児童相談所から入所の依頼があった時は、担当職員が本人と面会し、園の見学につなげている。1回目の見学は、他のこどもたちが学校に行って留守の時に行っている。2回目以降は、こどもたちがいる時間帯に来てもらっている。入所日までに、本人の好きなキャラクターや洋服、茶碗などを揃えて、好きなメニューの夕食を準備し、居室の仲間皆で温かく迎えている。措置変更の場合は、慣れない間は前の施設担当者に会いにきてもらい、こどもが安心できるようにしている。

②	<p>A6 こどもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p>	a
	<input type="checkbox"/> こどものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○

<input type="checkbox"/>	退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

卒園後の自立に向け、洗濯の練習や週末の食事作りを手伝ってもらう他、小遣いやアルバイト代を計画的に預金するなど、金銭管理を日頃から行っている。また、光熱費など無駄な使用はしないよう、職員が一般家庭と同じように声かけしている。アフターケアについては、卒園時の担当職員が窓口となり、面会を年に数回計画している。中には、メールや電話をしても応答や折り返しの連絡がない場合もあるが、外部機関とはつながっている場合もあり、深追いはせず、時を待つ姿勢でいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

常に落ち着いた子どもについて、クラス会議や職員会議などで取り上げ、状況を共有するとともに、児童相談所とも連携しながら、背景や要因を探って対応している。子どもたちの8割程度が養育環境(虐待)によるトラウマで情緒不安定になっている状況がある。全職員が情報を把握し、関係機関と連携しながら支援をしている。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は個別担当制とし、愛着関係の構築に努めている。「部活の打ち上げ参加回数」や「おやつ時間」などのルールはあるが、状況に応じて、居室職員の判断で柔軟に対応している。幼児は、宿直職員が各部屋を見渡せるリビングで寝て、安心して就寝できるようにしている。小遣いについては、2年前に子どもの希望を聞いて、金額を上げている。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
---	--	---

<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつつていくという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

居室毎に開催される児童会で、生活の中での問題を皆で考えているが、すべてをルールとして決めるのではなく、「思いやり」の心を養うことを大事にしている。例えば、テレビのチャンネル権もルール化せず、その都度、話し合っている。アルバイト代は、卒園後の資金用に預金を推奨しているが、「蓄えが貯まっているので大きな買物をしたい」などの希望に対しても、柔軟に対応している。トラブルや失敗を避ける支援を行いがちであるが、問題が起きた時の自己対応力も養いながら支援している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

各居室には、リビングに本棚があり、先輩が残した本や漫画などが並んでいる。居室に学習机はあるが、ほとんどの子どもが、リビングで宿題などを行っている。幼児は、雨天でも遊びが可能な場として、プレイルームを設けている。子どもたちは発達に応じて、特別支援学校や特別支援級に通っている。学習ボランティアの援助を受けたり、塾に通っている子どももいる。また、水泳や野球、フラ、マラソン、卓球などの活動を行っている。子どもたちは、発表の場で成果を見てもらうことを楽しみに頑張っている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

携帯電話の使用は、基本的に中学3年からとしている。SNSなどのトラブル防止については、失敗の対処方法も習得しておいた方がよいか検討している。普段から無駄な灯りは消すなど、卒園後の生活費削減の練習をしている。町内会に加入し、職員は町内会員としての役割を担い、子どもたちは子ども会に加入し、もちつきなどに参加している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

調理は委託ではなく、1階の調理室で夕食の主菜、副菜を調理し、各居室へ運んでいる。主食や味噌汁は居室担当の職員が調理し、ご飯が炊けるにおいしく味噌汁のかおりが感じられる環境を作っている。また、週末の昼食は居室で調理して、子どもたちも手伝っている。塾やアルバイトで夕食時間に間に合わない場合は、温めてあたたかい物を出している。子どもの誕生日は「こうふうしんぶん」に名前を掲載し、元パティシエの調理師手作りのデコレーションケーキのプレゼントがあり、本人だけでなく居室全体で楽しみにしている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

洗濯は職員が行い、個別の籠に入れておくと、各自が居室に収納することになっている。自分で洗濯するのは男子が多い。衣服は被服費の範囲の中で、不自由なく揃えているが、小学高学年になると、このような服がほしいと伝えてきたり、ファッションに興味のある子どもは自分で購入したりしている。また、インターネットを活用して購入するケースもある。寒期中、半袖や短パンの子どももおり、声かけはするが、判断のできる年齢なので、自己主張と捉えて本人に任せている。補修ボランティアには、リビングでボタン付けなどお願いし、ボタン付けの学習と家庭的雰囲気を感ずる場としている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生から高校生までの縦割りで、6人の子どもが同じ居室で生活している。また、幼児だけの居室もある。全員が個室ではないが、年長児からは個室としている。居室内でも部屋への出入りは本人のみとし、仲間とはリビングで遊んでいる。部屋の編成は、年度末にこどもの希望を参考にして決めている。共有スペースの掃除は、平日は職員が、週末はこどもたちが分担して行っている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりのこどもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的にこどもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要するこどもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、こどもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要なこどもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自分から体調変化を伝えられるこどもについては、本人の訴えを聴き、学校や塾の休みなど、本人と相談して決めている。状況に応じて、嘱託医に相談や受診をしている。薬は分包にしてもらって預かり、職員がその都度本人に手渡して服用するところまでを確認している。感染症が発生した場合は、本人の部屋を隔離室とし、2人部屋の場合は健康なこどもを他の部屋へ一時的に避難させたりしている。継続的に治療の必要なこどもは、児童精神科や療育センター、児童相談所などと定期的なカンファレンスを開催し、状態を共有している。

(6) 性に関する教育

①	A16 こどもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員やこどもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

性・生教育委員会があり、園で起こりそうな題材で、定期的にワークショップ形式で学習している。幼児期には「いいタッチ、悪いタッチ」をテーマにして学んでいる。学童期から思春期へと成長に合わせて、パーソナルスペースや妊娠、避妊などの題材で、ワークショップ形式で学習している。女子の居室は女性職員のみが対応し、初潮を迎えた場合は大人になったことの喜びの共有と「妊娠できる身体になった」ことを伝えることで注意喚起の機会としている。思春期の男子には、アダルト雑誌や漫画は、内容が間違っていることも多いことを伝えている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があったこどもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは、何らかのストレスやトラウマを抱えており、不適切な言動は日常的にある。職員は、特別なことではないという認識とともに、その都度、その背景にある要因を考え受容しているが、訴えたいことの受容と問題行動の許容とを混同しないようにしている。家族のもとに外泊した後に、問題となる言動が見られる場合は、家庭での状況について児童相談所と共有している。児童相談所の心理職による面接が月1回あり、主にプレイセラピーを受けている。また、SSTプログラムの「セカンドステップ」を取り入れている。最近は子どもたちが手をあげること（暴力）は少なくなっている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

気持ちをうまく表現できない子どもや、主張の強い子どもなど、子どもたちはそれぞれ性格が異なっている。生活の中で「支配されている」場面に遭遇したときには、その場で双方に声をかけている。早急な対応が必要な場合は、クラス会議やリーダー会議、職員会議などで検討し、居室替えなど、定期的な時期を待たずに必要な対応を行っている。職員は、生活の様子や遊びの様子から、子どもたちの関係性を観察している。居室担当外の職員も感じたことがあれば、職員会議などで取り上げ、職員間で共有し、全職員で見守りなどを行っている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

常勤の心理士はいないが、必要に応じて、児童相談所の心理司やパート雇用の心理士によって心理的ケアを行っている。心理療法室があり、児童相談所の心理司が月に1回訪問し、主にプレイセラピー療法を定期的に行っている。また、施設長が心理士であり、心理的支援におけるカンファレンスに出席し、背景にある課題などの検証において、専門的な視点で助言を行っている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>	

	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、こどもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のあるこどものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

居室に学習机を備えているが、宿題をするのはリビングが多い。学習塾については、友だちが行っているので行きたいとの申し出もある。一般家庭と同じように希望は叶えているが、1人1ヶ所にしてはいる。学力の低いこどもの就学については、保護者や児童相談所、市の特別支援教育総合センターとも相談し、状況に応じて、特別支援学校を選択したりしている。高校受験については、本人の学力に応じた学校を選択し、頑張って合格してもらっている。小学校で学力が心配される場合は、担任から相談があり、特別支援級で学んだりしている。幼児は年少から幼稚園に通園している。

②	<p>A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、こどもに判断材料を提供し、こどもと十分に話し合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>学校を中退したり、不登校となったこどもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>高校卒業後も進学を希望するこどものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>高校卒業して進学あるいは就職したこどもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。</p>	a
		○
		○
		○
		○
		○
		○

【コメント】

進路については、自立支援担当職員が窓口となり、高校入学とともに卒園に備え「NPO法人フェアスタートサポート」につなげ、本人の希望や興味を確認し、適性検査などを実施している。結果は進路先の判断材料とし、最終的に本人が決めている。県の児童福祉施設協議会の「当事者が語る会」には、希望するこどもを引率して参加している。措置延長の制度については、待機者が多く延長支援までは行き届いていない。また、児童養護施設退所者などに対する自立支援資金についても、貸付は返済負担が大きいこと、また給付については対象要件が厳しいことから、利用についてはこどもとよく話し合っている。

③	<p>A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。</p> <p><input type="checkbox"/>実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、こどもの自立支援に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。</p> <p><input type="checkbox"/>アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。</p>	a
		○
		○

【コメント】

特別支援学校に通っているこどもには、実習や職場体験があり、就職先を決めるのに役立てている。工業高校に通い、フォークリフトや高所作業関連資格、危険物取扱者の資格を取得しているこどももいる。高校生にはアルバイトを推奨しており、巣立ちのための資金の他、働くことの大変さを学んでいる。アルバイト先は、寿司屋やハンバーガーショップ、蕎麦屋、ピザ屋などがあり、ピザはこどもが週末に作ってくれることもある。アルバイト先での人間関係の悩みの相談もあり、職員が助言することもある。園の歴史は古く、応援してくれている事業所も多く、巣立ちの相談先になっている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	<p>A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所がこどもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。</p>	a
		○

	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

家族との連絡は児童相談所が行っているが、園への直接の連絡は家庭支援専門相談員が窓口となっている。内容により、児童相談所へ報告して共有している。小学生は家族に面会に来てほしいと希望する子どもが多いが、中学生になると、どちらでもよいと言う子どももいる。家庭への一時帰宅後は、本人の様子を観察し、不適切な関わりが疑われた場合は、児童相談所へ連絡し、カンファレンスを実施している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

親子関係の再構築支援は、子どもの希望や親の意向を確認して、家庭支援専門相談員を中心に取り組んでいる。一時帰宅については、面会、外出、宿泊体験などの段階を踏み、児童相談所とタイミングを相談している。身体的虐待で入所に至ったケースでは、1ヶ月ごとの面会の約束が守られているかを確認した後に、次の段階に進んでいる。また、家庭に戻った後も、定期的にフォローしているケースもある。